

語彙力と学業成績との関連

大 平 芳 則¹⁾*・阿志賀 大 和¹⁾・粟生田 博 子¹⁾・
篠 崎 雅 江²⁾・田 中 善 信¹⁾

1) 新潟リハビリテーション大学 医療学部 リハビリテーション学科

2) 国際医療福祉大学 小田原保健医療学部 作業療法学科

〔受付：平成28（2016）年10月15日〕

〔受理：平成28（2016）年11月14日〕

キーワード：語彙，学業成績，学力，語彙・読解力検定，GPA

要旨 目的：語彙力と学業成績との間に関連があるかどうかを確認し，学生指導に役立つための基礎データをを得ることを目的とした．対象と方法：学生56名を対象とし，語彙力の測定に語彙・読解力検定を，学業成績の測定にGPAを用いて，両者の相関を調べた．結果：語彙・読解力検定の合格率は57.1%（32/56），辞書語彙スコアの平均は 420.5 ± 79.8 であった．GPAの平均は2.29，中央値は2.3となった．辞書語彙スコアとGPAの相関は，不合格者についてのみ有意となり（ $r = 0.536$, $p < 0.05$ ），合格者では有意な相関はなかった（ $r = 0.146$ ）．結論：不合格者に有意な相関を認め，合格者には相関がなかったことは，辞書語彙が乏しいと学業成績に影響を与える可能性を示唆している．ただし，辞書語彙が一方的に学業成績に影響するとは考えにくく，両者は互いに関係しあっているものと思われる．語彙を増やすための授業を実施すること，読書を積極的に推奨することが，学業成績改善につながる可能性がある．

I はじめに

十分な学力を身につけるには，日頃の授業を良く理解するとともに，テキストを読解できることが必要である．幅広い語彙力は，話しことばにおいても書きことばにおいても，よりよい理解のために必要であることはいままでもない．語彙が乏しい学生は，教師の

言ったこと，テキストに書かれていることが，語彙の貧弱さゆえに理解ができなくなる恐れがある．したがって，そのような学生の語彙力を向上させることは，授業内容，テキストの内容の理解改善につながるであろう．学習状況調査報告書¹⁾や授業アイデア例²⁾においても，語彙，語句を広げるための提案がなされている．

* Corresponding author:

新潟リハビリテーション大学 医療学部 リハビリテーション学科

〒958-0053 新潟県村上市上の山2-16

Tel : 0254-56-8292

Fax : 0254-56-8291

E-mail : ohdaira@nur.ac.jp

国家試験（国試）の成績と基礎学力、日頃の学業成績、臨床実習の成績との関連を調べた報告³⁾では、国試の成績ともっとも相関が高いのは国語、英語、数学という基礎学力の総合成績、次に日頃の学業成績であり、もっとも相関が低かったのは臨床実習の成績であった。すなわち、高い基礎学力が良好な国試の成績につながり、語彙はその一端を担う重要な要素といえる。

語彙力はことばを理解するうえでの土台であって、豊富な語彙なしに多様な語彙で表現された日本語を理解することはできない。そこで、本研究では、語彙力と学業成績との間に関連があるかどうかについて検討し、今後の学生指導に役立つための基礎データを得ることを目的とした。

II 対象

某私立大学学生2年生56名を対象とした。無作為に選んだ65名のうち、事前に書面と口頭による説明を行ない、同意が得られた者のみを対象とした。

III 方法

語彙力の測定には、朝日新聞とベネッセコーポレーションが共同開発した「語彙・読解力検定」を用いた。その出題内容は、「辞書語彙」、「新聞語彙」、「読解」の3つに大別される。したがって、学習に必要な語彙

知識を問うばかりでなく、新聞に現れる時事用語も多く含む。また、文章と資料を読み解き、その読解力を問う問題も含まれている。難易度に応じて1級から4級までの検定コースが用意されている。受検者ごとの結果は、可否とIRT（Item Response Theory 項目反応理論）による辞書語彙スコア、得点率で示されるため、定量化が可能である。IRTとは、あらかじめ問題の1問1問に難易度の指標をつけておき、どの程度の難易度の問題に正解・不正解したかという情報から、受検者の能力を表すスコアを算出する方法で、語彙・読解力検定では、10万人以上の事前調査の結果から各問題の難易度の指標を設定してある⁴⁾。受検者の成績は、辞書語彙については「辞書語彙スコア」、新聞語彙と読解については両者の「合計得点率」が示される。合格するには、辞書語彙スコアと合計得点率の両者がいずれも合格判定基準に到達する必要がある。橋本ら^{5) 6)}の報告によると、大学生でも中学1～3年生レベルの語彙しかない者がおよそ2割を占めているため、中学校卒業レベルの3級⁴⁾が適切であると考え、3級を受験することとした。3級の合格基準は、辞書語彙スコアが410、合計得点率が60%である⁴⁾。なお、受検日は2015年11月13日とした。

一方、学業成績の測定には、対象学生の1年時のGPA（Grade Point Average）を用いた。科目数を統制したり必修科目に限定する等の考慮はせず、対象校

表1 辞書語彙スコアおよび新聞語彙と読解の合計得点率の平均

	合格者 n=32	不合格者 n=24	全受検者 n=56
辞書語彙スコア	484.1 ± 27.1	335.8 ± 33.7	420.5 ± 79.8
新聞語彙と読解の合計得点率	83.1 ± 6.7%	69.0 ± 10.3%	77.1 ± 10.9%

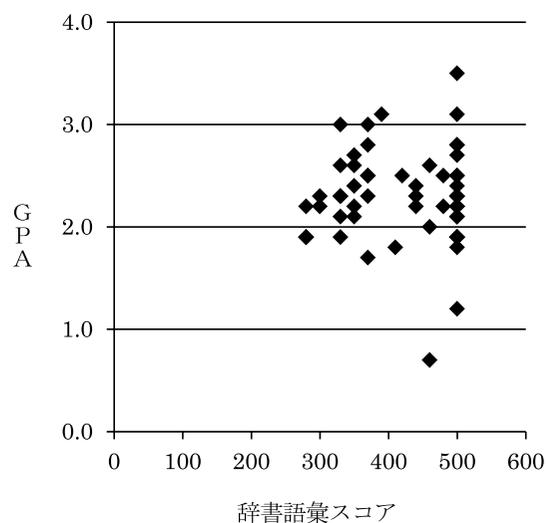


図1 辞書語彙スコアと GPA の分布（全受検者）

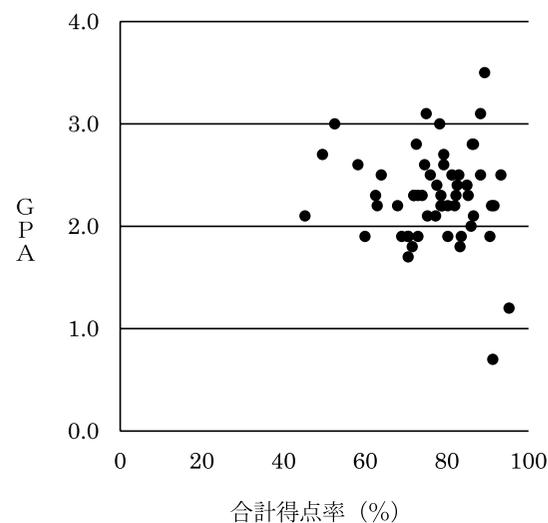


図2 新聞語彙と読解の合計得点率と GPA の分布（全受検者）

が定める GPA の算出方法に基づいて計算された値をそのまま使用した。GPA 制度は文部科学省が推奨している成績評価の方法であり⁷⁾、GPA の計算には単位数による重み付けがされていて、学業成績を表すよい指標であると考えられる。この対象校の GP (Grade Point) の段階は 0～4 である。

そして、受検者全員、合格者のみ、不合格者のみ、それぞれの群について GPA と辞書語彙スコア、GPA と合計得点率の相関を調べた。なお、有意水準は 5% とした。

本研究は、新潟リハビリテーション大学倫理委員会の承認を得たのちに実施した。

IV 結果

語彙・読解力検定は、56名中32名が合格し、合格率は57.1%であった。辞書語彙スコアの平均は 420.5 ± 79.8 で、合格基準に達したのは32名であった。新聞語彙と読解の合計得点率の平均は $77.1 \pm 10.9\%$ で、合計得点率の合格判定基準を達成したのは52名となった。辞書語彙スコアの測定範囲は、3級では280～500であるが、上限の500を獲得した学生が22名いた。なお、辞書語彙スコアの合格基準達成者については、全員が合計得点率も合格基準に達していた。すなわち、合格者32名と辞書語彙スコア合格基準達成者32名は完全に一致しており、合計得点率の合格基準の達成者52名のうち20名が辞書語彙スコアの合格基準に到達できず、

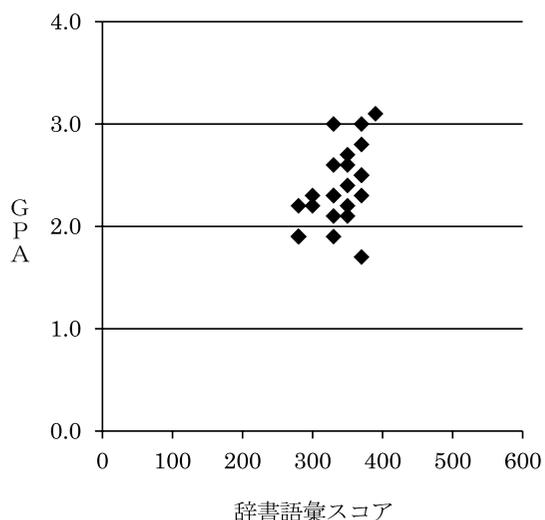


図3 辞書語彙スコアと GPA の分布 (不合格者)

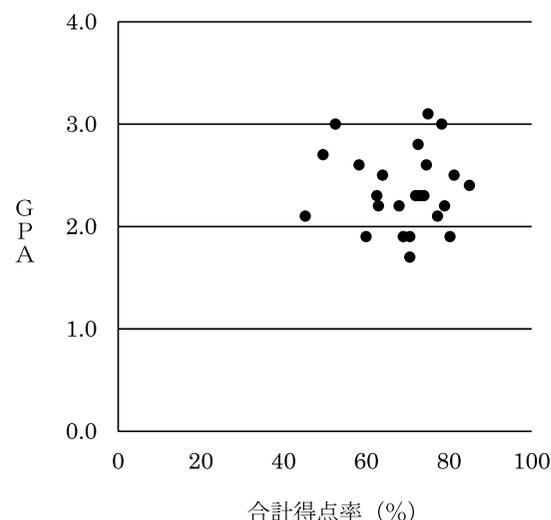


図4 新聞語彙と読解の合計得点率と GPA の分布 (不合格者)

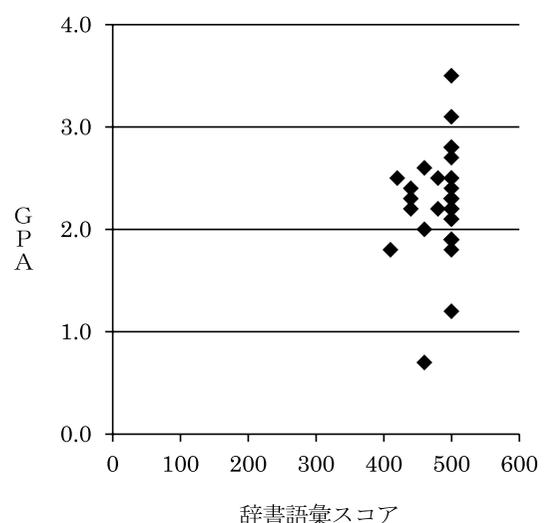


図5 辞書語彙スコアと GPA の分布 (合格者)

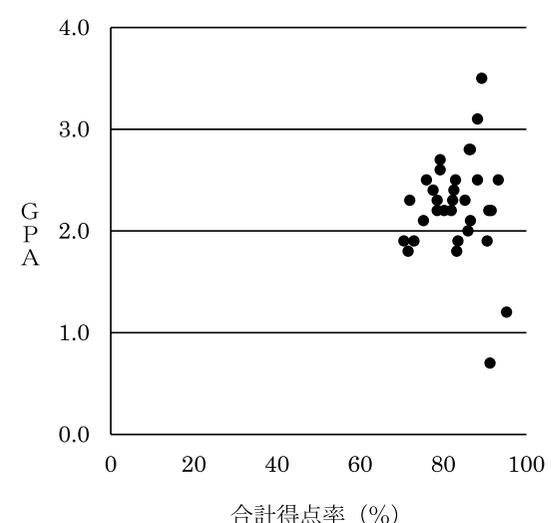


図6 新聞語彙と読解の合計得点率と GPA の分布 (合格者)

合計得点率で合格基準にとどかなかった4名は、辞書語彙スコアでも合格基準に達しなかった。辞書語彙スコアおよび合計得点率の平均と標準偏差を表1に示す。

GPAについては、平均値は2.29、中央値は2.3であった。

辞書語彙スコアとGPAの分布(図1)をみると、両者のあいだに相関はなく($r = -0.001$)、語彙力が学業成績に与える影響はないことが明らかとなった。同様に、図2に示す通り合計得点率とGPAとの間にも相関関係はみられなかった($r = -0.094$)。

しかし、不合格者についてGPAとの関係を見ると、図3に示すように辞書語彙スコアでは $r = 0.536$ となり、中程度の相関があることが分かった($p < 0.05$)。一方、図4の通り合計得点率との関連はみられなかった($r = -0.048$)。

同様に、合格者についてGPAとの関連を調べると、辞書語彙スコア($r = 0.146$)とも合計得点率($r = 0.000$)とも相関はなかった(図5, 6)。

V 考察

語彙・読解力検定の不合格者24名は全員、「辞書語彙スコア」の合格基準に達していなかった。一方、不合格者24名のうち、新聞語彙と読解の「合計得点率」が合格基準に到達しなかったのは、わずか4名のみであった。3級の新聞語彙は「社会を理解するために必要な知識」⁸⁾であるが、テレビの他、高機能なポータブルIT機器の普及により、いつでもどこでも容易に社会的コンテンツにアクセス可能となっていることが、合計得点率の良好な結果の一要因であると考えられる。また、新聞語彙の問題では、医療や福祉に現れる語彙も出題される。対象となった学生は全員が医療系学科に所属しており、その分野に関する知識は比較的多くあると思われる。これも高い合計得点率につながった要因であると推測される。3級の辞書語彙は、「確かな学力を習得するために必要な語彙」とされており⁸⁾、辞書語彙が十分でないと、確かな学力を身につけるためのレディネスが満たされていない可能性がでてくる。もちろん、語彙力が改善されれば学力の問題がすぐに解決するわけではないだろうが、語彙力を高めるための支援は有意義と思われる。

GPAとの関連について考えてみると、不合格であった24名の辞書語彙スコアでのみ有意な相関を認め、不合格者の合計得点率や合格者32名の辞書語彙スコア、合計得点率とは相関がなかった。これは、辞書

語彙が乏しいと学業成績に影響を与える可能性を示唆している。ただし、辞書語彙が一方向的に学業成績に影響するとは考えにくく、両者は互いに関係しあっているものと思われる。しかし、語彙が不足しているがゆえに授業内容を十分に理解できない、という事態が生ずる恐れは十分あり、このような問題を解決するには語彙を増やすことが有効な解決策となる。不合格者の中にはGPAが3以上という良好な学業成績の学生が3名いるが、辞書語彙が不十分であっても、本人の努力やすぐれた記憶力、洞察力といった本人の資質、切磋琢磨する友人等の望ましい環境が、高いGPAにつながっているものと考えられる。

一方、合格者では、辞書語彙スコアとGPAとの間に相関はなかった。これは、一定以上の語彙力があれば学業成績との関連はなくなり、学業成績は語彙以外の要因によって影響を受けるということの意味している。ただし、合格者の辞書語彙スコアについては、高いスコアの学生が多く、測定範囲の上限500に対し平均が484.1であり、天井効果により相関関係が表れなかった可能性もある。

合格者も不合格者も、合計得点率とGPAとの間に関連がみられなかったことに関しては、合計得点率の一部を構成する新聞語彙が「社会を理解するために必要な知識」⁸⁾であることを考慮すれば、十分に納得できる。

橋本ら^{5) 6) 9)}、馬場ら¹⁰⁾も大学生の語彙力の調査を行なった結果、語彙が十分でない学生が少なからずいることを指摘し、何らかの対策の必要性を強調している。その中でも特に、橋本ら^{5) 6)}は、大学生でも語彙力が中学生程度しかない者がおり、授業の理解が困難になることを問題視している。今回のわれわれの調査からも、中学卒業レベルの語彙力とされる3級の語彙辞書スコア⁴⁾が合格基準に達しなかった学生が4割を超えていることが分かり、さらに、小学校卒業～中学校レベルの語彙力である辞書語彙スコア300⁴⁾に到達しなかった学生も少数ながらいることが明らかとなり、早急な対策が必要であると考えられる。

語彙力改善のためには、日本語に関する授業が有効であることを、橋本ら⁹⁾は指摘している。「日本語」や「文章表現」といった科目が語彙力を引き上げたが、それらの授業がなくなった1年後には元に戻ってしまい、指導の継続の重要性を説いている。また、齋藤¹¹⁾は読書、特に名作と呼ばれる文学作品を読むことが語彙の増大に効果的であると力説している。さらに、Molら¹²⁾は、メタ分析により、読書が単語に関する

知識を増やすことを明らかにするとともに、就学前から大学生までの年齢層においては年齢が高いほどその影響が強くなることを示し、読書量が多い学生ほど学業成績も良好な傾向があることを見いだした。語彙・読解力検定を実施している朝日新聞とベネッセコーポレーションの調査¹³⁾でも、読書が好きな人ほど、また、1か月に読む書籍数が多いほど、語彙力が高いという結果になった。加えて、辞書語彙の得点率を読書量と比較すると、1か月に読む書籍数がゼロの群では58.3%、1～2冊の群では73.0%と、全く読まないか多少でも読むかで、大きな違いとなった。したがって、授業を聞いて理解する力、テキストを読んで理解する能力を向上させる1つの方法として、語彙力を改善するための授業を継続的に実施すること、読書を勧める活動が有効であると考えられる。

VI 結論

語彙力を語彙・読解力検定で測定し、学業成績をGPAで測定し、それらの関連をみたところ、検定に不合格であった学生の辞書語彙力と学業成績との間に有意な相関を認めた。しかし、検定に合格した学生については、有意な相関はみられなかった。語彙が乏しいことが原因で、授業内容やテキストの内容を十分に理解できない、ということがあり得る。したがって、語彙力が低い学生については、語彙を増やすための授業を実施すること、読書を積極的に推奨することが、学力改善につながる可能性がある。

本研究は、平成27年度新潟リハビリテーション大学学長裁量経費の支援を受けて行なわれた。

文献

- 1) 文部科学省国立教育政策研究所：平成26年度全国学力・学習状況調査報告書中学校国語。2014。
<https://www.nier.go.jp/14chousakekkahoukoku/report/data/mlang.pdf>
(アクセス2016.8.1.)
- 2) 国立教育政策研究所教育課程研究センター：平成26年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例中学校国語数学。2014。
<https://www.nier.go.jp/jugyourei/h26/data/m.pdf>
(アクセス2016.8.1.)
- 3) 阿志賀大和, 大平芳則：国家試験成績と基礎学力, 学業成績, 実習成績との関連 - 本学言語聴覚士養成課程の成績からの考察 -。明倫紀要 8:1-6, 2015.
- 4) 朝日新聞, ベネッセコーポレーション：語彙・読解力検定公式テキスト 合格力養成 BOOK 3級 改訂版。朝日新聞出版, 東京, p6, 2015.
- 5) 橋本美香, 山口恒夫, 下田健治, 大高正憲：川崎医療短期大学における「日本語プレースメントテスト」の実施結果。川崎医療短期大学紀要 28:19-25, 2008.
- 6) 橋本美香, 山口恒夫, 兵藤文則：川崎医療短期大学における「日本語プレースメントテスト」の実施結果(第2報)。川崎医療短期大学紀要 29:1-5, 2009.
- 7) 文部科学省：大学における教育内容・方法の改善等について
http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/daigaku/04052801/003.htm
(アクセス2016.10.30.)
- 8) 朝日新聞, ベネッセコーポレーション：語彙・読解力検定公式テキスト 合格力養成 BOOK 3級 改訂版。朝日新聞出版, 東京, p7, 2015.
- 9) 橋本美香, 山口恒夫, 藤文則：川崎医療短期大学における語彙力に関する調査。川崎医療短期大学紀要 30:9-15, 2010.
- 10) 馬場真知子, 田中佳子, 林部英雄, 有賀幸則, 小野博：日本語リメディア教育 日本語文章能力開発演習の試行と成果の検証。メディア教育研究 11:27-38, 2003.
- 11) 齋藤孝：語彙力こそが教養である。KADOKAWA, 東京, pp52-103, 2015.
- 12) Mol SE, Bus AG: To read or not to read: A meta-analysis of print exposure from infancy to early adulthood. Psychological Bulletin, 137 (2), 267-296, 2011.
- 13) 朝日新聞, ベネッセコーポレーション：第1回現代人の語彙に関する調査 速報結果。2016。
http://www.goi-dokkai.jp/research/pdf/research160915_02.pdf
(アクセス2016.9.20.)

The Relation between Vocabulary and Academic Achievement

Yoshinori Ohdaiara¹⁾*, Hirokazu Ashiga¹⁾, Hiroko Aoda¹⁾,
Masae Shinozaki²⁾, Yoshinobu Tanaka¹⁾

1) Department of Rehabilitation, Niigata University of Rehabilitation

2) Department of Occupational Therapy, International University of Health and Welfare

[Received: 15 October, 2016]

[Accepted: 14 November, 2016]

Key words: vocabulary, academic achievement, vocabulary and reading skill test, grade point average, GPA

Abstract Objective: The research was performed to obtain useful data through which we instruct our students. Subjects: Fifty-six students of a college were involved in the research. Study design: The vocabulary of the students was measured by a commercially available vocabulary and reading test, and GPA of each student was employed as an evaluation of academic achievement. We calculated the correlation coefficient between the vocabulary score of the test and GPA. Results: Thirty-two students of 56 passed the test (pass group, 57.1%), and 24 students failed the test (failed group). The average of the vocabulary score was 420.5 ± 79.8 (full marks; 500). The average of GPA was 2.29, and the median was 2.3 (maximum; 4). The correlation between the vocabulary score and GPA was statistically significant for the failed group ($r=0.536$, $p<0.05$). However, no significance was found for the pass group ($r=0.146$). Conclusion: As for the failed group, the poorer the vocabulary score is, the lower academic achievement is. This is not the case with the pass group. The result suggests that a poor vocabulary affects academic achievement but that an abundant vocabulary does not necessarily ensure higher academic achievement. It can be an effective way to improve academic achievement to give a class which helps students increase their vocabulary or to encourage students to read books.